

1~3月期 GDP の特徴

藤田 実さんに聞く

内閣府が18日、公表した2022年1~3月期国内総生産（GDP）の特徴について、桜美林大学教授の藤田実さんに聞きました。

1~3月期は新型コロナウイルスの感染拡大や原材料高騰、半導体不足による製造業の停滞などと鼓舞されました。加えてロシアがウクライナに侵略して世界経済が混乱しました。経済が好転する材料は全くありませんでした。個人消費を詳しくみると、家計最終消費支出は持ち家の帰属家賃を除いた成長率が昨年減です。このことが家計消費を冷え込ませました。

内外需とも低迷

長要因は見当たらず、日本経済は深刻な状況です。その上、物価高騰が日本経済を襲って

は0.5%増ととても弱々しい結果となりました。内需の柱である消費も投資も低迷しています。

いま、欧米ではインフレ進行が懸念されていますが、日本の場合、景気悪化のもとで、タグフレーションに陥るおそれがあります。一方、大企業の3月期決算をみると、軒並み過去最高の純利益や経常利益を記録しています。田安の恩恵を受けて海外でのもうかが田建てで大きくなるのに加え、輸出も有利になった結果です。グローバル大企業が大もうけしても国内経済に還流しない構造になってしまっています。

	内需 増加率	外需 増加率	年率 年率
△ 寄与度	0.2	1.0	▲ 0.4
△ 主要項目	0.2	0.0	▲ 0.0
個人消費	▲ 0.0	▲ 0.0	▲ 0.0
住宅投資	▲ 1.1	0.1	▲ 0.2
設備投資	0.5	0.2	▲ 0.2
民間在庫	—	0.2	▲ 0.2
公共投資	▲ 3.6	0.6	▲ 0.6
輸出	1.1	0.4	0.4
輸入	3.4	—	—

◇ 実質成長率

△ 寄与度

△ 主要項目

個人消費

住宅投資

設備投資

民間在庫

公共投資

輸出

輸入

△ 名目成長率

△ GDP デフレーター ▲ 0.4

(注)数字は%。民間在庫は寄与度のみ。GDP デフレーターは前年同期比でその他は前期比。▲はマイナス